

作って覚える VB.NETプログラミング

画像ファイルビューアを作ってみよう

初音 玲 HATSUNE, Akira

はじめに

プログラミングを学ぼうとするときに大切なことは、作り始めたアプリケーションはとにかく最後まで完成させることだ。途中で中断するのと完成させるのとでは、身に付く経験値の差

は歴然だ。では“完成させること”は、身に付くノウハウに差が生じるくらい難しいことなのだろうか。

たしかに完成せずに中断してしまうのは、未熟であるがゆえに困難な問題が頻出し、それらをなかなか解決できないということもあるだろう。逆に言えば、完成したときには、そういった問題を解決できたことになるので、当然得られる経験値が差として現われる。しかし、それ以上に重要なのは、完成させることで「ちょっとした改造」と

いう“ボーナスステージ”が出現することなのだ。完成したアプリケーションを実際に自分で使ってみると、考えていた通りのモノなのに、想像していた通りのモノではない場合がある。そういったフィット&ギャップを解決し続け、ボーナスステージをクリアし続けることで、最初から想像していたアプリケーションを実装できるようになる。これが重要なのだ。

そこで、今回の特集では、使ってみたときに不満点がわかりやすい題材と

Level

1 2 3 4 5

Technology Tools

- Visual Basic
- Visual C#
- Visual C++
- SQL Server
- Oracle
- Access
- ASP.NET
- Other:
↓
Visual Studio .NET 2003

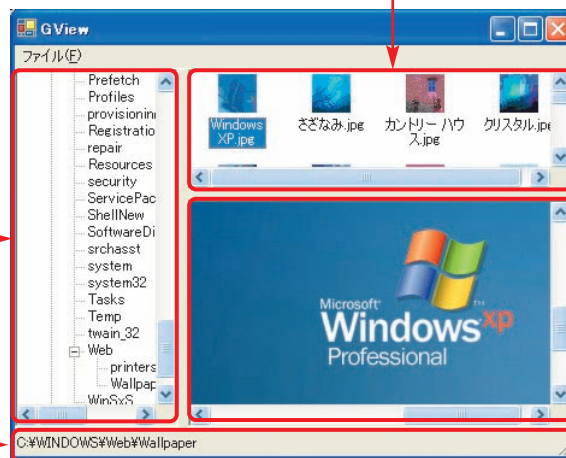
Samples

この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、
<http://www.shoeisha.com/mag/windev/>
からダウンロード可能です。

図1：サンプル完成図

ツリービューには
ディスクの中身を階層表示

リストビューには現在のフォルダの画像ファイルを
縮小表示（サムネイル表示）



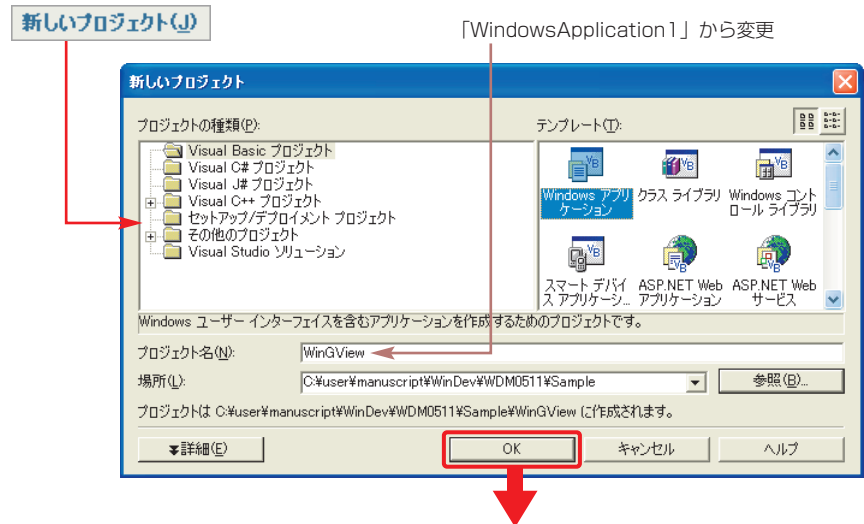
ステータスバーには
現在のフォルダ位置を表示

リストビューで選んだ画像ファイルを
実物表示



して、画像ファイルの内容を表示する画像ファイルビューアをVB.NETでWindowsアプリケーションとして作成してみたいと思う(図1)。そして、このツールの作成過程を追うことで、ボーナスステージとはどういったことなのかを考えていきたい。なお、説明の都合上、完成してからのボーナスステージではなく、ある程度完成したら、その部分の使い勝手を検証して「ちょっとした改造」を行なうような構成になっている点に注意してほしい。

図2：新しいプロジェクトの作成



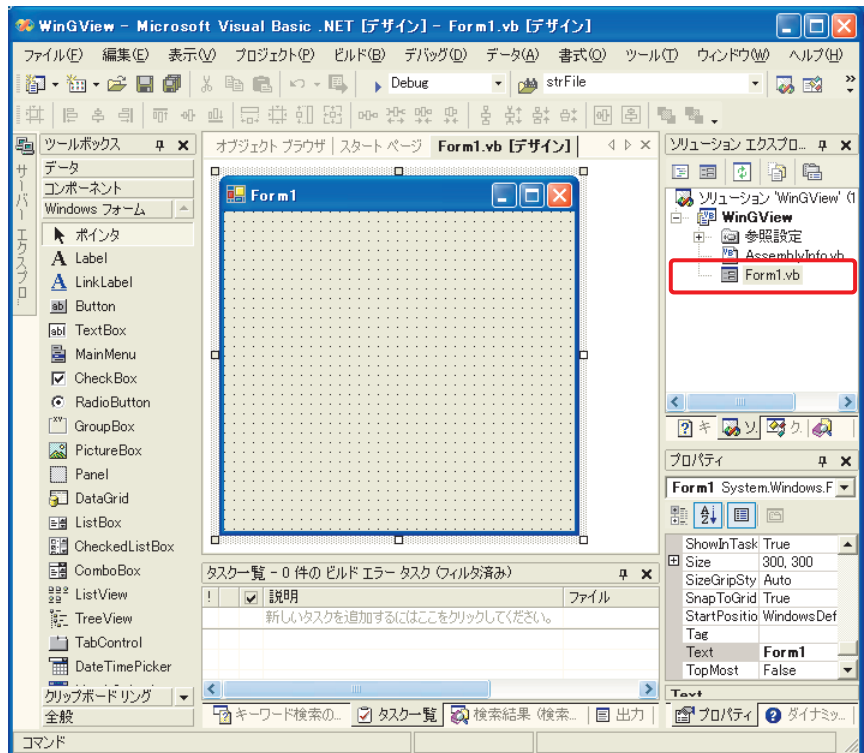
画面の準備

Windows系のツールを作る場合、やはり重要になってくるのは、使いやすいGUI（グラフィカルユーザーインターフェイス）を使った見た目よい画面だろう。そのためには、VB.NETに用意されている部品（.NETコンポーネントやコントロールと呼ぶこともある）をどのようにレイアウトして、どのような動作をさせるかという点が重要だ。しかし、もし、本格的にプログラミングを学ぼうと考えているのなら、そういった外から見える見た目と同じくらい重要なのが、中身の見た目だ。つまり、見やすいコードを書けるかどうかだろう。

プロジェクトに名前をつける

一例を挙げよう。VS.NETを起動して、VB.NETの新しいプロジェクトを作成する場合、図2のような流れで、新しいプロジェクトが作成されて初期状態の開発環境が立ち上がる。

このとき、プロジェクト名として、



初期表示の「WindowsApplication1」のまま進めていった場合と図の例のように「WinGView」で進めていった場合では、どちらのほうがわかりやすいだろうか。説明するまでもなく、後者の「WinGView」のほうが。

では、なぜ「わかりやすい」ということが重要なのだろうか。VB.NETに限らずプログラミングをしていると、コードのいろいろなところに「名前」が登場する。というのも、コードの中で何かを特定する場合、必ず名前を指